



## 大学 e ラーニング協議会ニューズレター

発行：大学 e ラーニング協議会 広報委員会  
委員長：福村 好美（長岡技術科学大学）

### 1. 総会・フォーラム 2013（ご案内）

**今回は本協議会がステークホルダとして参画している文部科学省・大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」公開フォーラムと合同で開催します。**

(1)開催場所：佐賀大学教養教育 1 号館

(2)開催期日：2014 年 3 月 6 日（木）・7 日（金）

(3)テーマ：一斉授業から ICT を活用した反転授業へ

(4)概要：ICT 活用教育を推進している大学は着実に増えている。ICT 活用教育は、同期型遠隔授業、VOD 型フル e ラーニング、対面授業に e ラーニングを取り込んだブレンディッド型 e ラーニングなど様々な形態で、大学の授業やリメディアル教育等に利用されている。一方、大学の授業は、実習や演習を除けば、一斉授業の形式で一方向授業が圧倒的に多い。これまでの大学教育においては、大学では一斉授業（講義）で学び、自宅で復習・予習を行うのが一般的であった。しかしながら、復習・予習時間が非常に少ないことから、単位の実質化（1 単位 45 時間の学習時間の確保）が問題になってきている。

ここ数年、学生は「書く」「考える」「話す」能力が世界水準で弱いことから、能動的な授業いわゆるアクティブ・ラーニングの必要性が叫ばれている。さらに最近、「反転授業」という言葉を耳にするようになった。ICT を活用すると、e ラーニング化された VOD 講義やドリル型教材等により、自宅でも学習できるようになる。反転授業は、主な学習は自宅で行い、大学では協同学習等によりわからないところを学び合うことを目的とする。この方法だと、知識獲得を主に自宅で行い、大学では主体的に「批評する」「考える」「話す」機会が多くなる。まさしく、経済産業省や文部科学省が望んでいる、問題解決型の人材育成の大学教育環境構築が期待できる。

しかしながら、自宅で学習できる適度の教材が十分に揃っているとは言い難く、ICT 活用教育の実施体制（メンター）などの問題点も多い。本フォーラムでは、ICT 活用教育の現状を明らかにしながら反転授業への可能性を探っていく。

#### (5)個人発表募集

例年どおり、個人発表を募集いたします。詳細は 7 ページをご参照ください。

#### (6)会員大学の現状紹介

大学 e ラーニング協議会会員校の今年度の ICT 活用教育の実施状況について、冊子にまとめて配布します。

#### 【スケジュール概要（予定）】

3 月 6 日（木）

13:00 受付開始

13:30～16:00 基調講演

16:10～17:30 大学間連携事業成果報告

17:30～18:20 ディスカッション

18:30 閉会  
19:00～20:30 情報交換会

3月7日(金)

10:30 受付開始  
11:00～11:30 大学eラーニング協議会総会  
11:30～13:00 企画セッション1(個人発表)  
13:00～14:00 昼食  
14:00～15:30 企画セッション2(個人発表)  
15:30 閉会

※プログラムについては、現時点の案であり、当日変更される可能性があります。  
※幹事校については、3月7日(金)9:00～10:30で幹事校ミーティングを予定しております。

## 2. 大学eラーニング協議会 5年を振り返って

大学eラーニング協議会会長  
京都情報大学院大学・電気通信大学  
岡本 敏雄



### (1) はじめに

文部科学省高等教育に関わる、大学競争的資金プログラム“現代GP-eラーニング”の採択大学が、集まって、“大学eラーニング協議会”を2009年に発足させた。現在、加盟大学数は、34である。それぞれの大学が、独自性と個性的な特徴を出し合いながら、その前提のもとで、「ユーザインターフェイスとシステム連携検討部会」、「ポートフォリオによる教育支援検討部会」、「教材共有検討部会」3つの委員会を構成し、本協議会の組織固めをしてきた。

eラーニングによる大学の実践は、一過的なプロジェクトではなく、各大学での実態を踏まえながら独自の取り組みを継続的に実践しておくことが重要である。そういった意味・視点から、協議会の各大学の方々が、積極的に関与してくださったことに感謝の気持ちで一杯である。

### (2) eラーニングによる大学改革

大学において、eラーニングを実践していくという定常的教育活動において、組織的取り組みは不可欠である。その条件として、

- ① 大学におけるeラーニング活用の教育理念の合意
  - ② 大学全体のカリキュラムの下でのeラーニングによる実施科目
  - ③ eラーニングコンテンツの開発体制と方法論
  - ④ eラーニングによる教育に対する評価の方法(各大学における教育評価、コンテンツの評価、組織の評価、FDといった視点からの評価等)
  - ⑤ コスト・パフォーマンス
- 等である。

このような観点から、本協議会内部に、前述の3つ部会を設けて、加盟大学が、いずれかの部会に主体的にコミットし、物や資源(コンテンツ、各種ユティリティ、評価法等)、大学内組織作り、人材開発等の経験や知恵を相互交換してきたわけである。

これまでの文部科学省の多くの政策において、大学GP・eラーニングは極めて良い、かつ成功した事例ではなかったかと思う次第である。その成果は、毎年開催される”e-Learning

World/Award” と呼ばれる我が国で最大の展示・実践の公開場で、その成果を多くの方々にも知ってもらうことができた。

### (3) 変化するeラーニング

筆者は、長年、ISO/SC36 (Information Technologies for Learning, Education and Training 分野の国際標準化を扱う) でのWG2 (協調学習環境の技術標準を扱う) の議長をしてきたが、eラーニングシステムの中に、どのように協調、協同的な学習形態を取り込むべきか、そしてその技術的環境はどのようなソフトウェア環境が必要かを検討してきた。インターネット技術の発展によって、多くの人々が自前の新聞社、放送局を持つことができるようになった。独自のWebページ開設やBLOG, WIKI, Twitter, Facebookなどのソーシャルメディアは、その活動を支援してくれるコミュニケーション型知識共有の道具である。今後、さらに多様な道具が登場するであろう。そこでは、データ・情報の保存や再利用、リソースの共有、そして知識マネージメントといった行為を支援する機能も具備されよう。このような活動は、当然ながら教育活動にも大きな影響を与え、さらに学習活動の形態も変化させる。賢い電子教科書、賢いコミュニケーション・ツール、インタラクティブティとリアリティのあるコンテンツ、さらに知識創産・共同作業ソフト等が出現するであろう。それらの活用によって教育活動のよりの確なフィードバック処理と成績・評価活動の迅速化・効率化・多様化が図られよう。

また、教育の質保証の問題も声高に叫ばれるようになってきた。大学という組織自体の教育力、個々の教授者の教育力を問う声も盛んである。学び手の確かな能力形成 (コンピテンシ) のための教授力の要求も強くなってきた。ある意味では、eラーニングという教授・学習システムの新たな在り様を検討する時期に来ているのではなかろうか？そして、その有効性を証明する段階に入ったと言えよう。

### (4) eラーニングと電子教科書の融合と素朴な疑問

ノートブック型のPCが急速に普及し、それ自体が多機能を有するデバイスである。それ故、従来の教科書的なコンテンツは、完全に電子化され、紙ベースの利用・使用感を充足させてきている。それに加えて、通信機能を始め、様々な機能を搭載した夢の教科書を創り上げることができるようになった。しかしながら、次のような問題点も指摘されている。それらは、

1. 個人データはどこに保存されるのか。その管理は？
2. 無線LANはどのように設定すべきか？
3. デジタル教科書のコンテンツは、誰がどのように開発するの？
4. 著作権の認定および著作権等の問題は？
5. 動画、音声等のコンテンツの扱いは？

これらの問いかけは、いずれeラーニングと電子教科書が融合されていくであろう近い将来、本大学eラーニング協議会でも十二分に検討していかなければならない課題でもある。

### (5) おわりに

情報・通信・メディア技術の多様化、統合化に伴って、学習の様態を変容させてきている。こういった環境変化に伴って、我々はどのような優位で効果のある学習環境や方法を提供していくべきかが問われているように思われる。ノートブック型のデバイスは、今やオールラウンドの機能を備えている。電子教科書 (様々な電子書籍を含む) は、eラーニングの発展系であり、特に区別をする必要はない。ある意味では、eラーニングの今後のあるべき姿である。最も重要なのは、学習者個人のプロファイル (e-Portfolio) をLMS (Learning Management System) を介して、しっかりと記録・評価し、学習者の学習評価のみならず、教師の次なる教授行為に反映させることである。それは、さらに電子教科書の内容、出来具合の評価にもつながり、そして教師の活用・指導力の評価にも繋がるものである。現時点では、電子教科書の表

面的な利便性（インタフェイスの面白さ等）、魅力が主張されているが、この LMS の在り様、教育的な機能を“学習評価”、“教育評価”といった視点で、十分に議論する必要がある。

我々の大学 e ラーニング協議会も、将来に向けて、上述した事項を十二分に議論・検討する時期に来ているのではなかろうか。さらに、開かれた大学教育を実現していくために、e ラーニングという教育手段は、今後、より一層求められよう。前述したモバイル PC（タブレット）は、いつでも、どこでも、そして誰でもが、“学ぶ”というニーズと意欲がある人たちにとって、極めて利便性の高いデバイスである。このような動向を十分に認識して、本協議会の存在の意味・価値を、さらに高めていく必要がある。

最後に、大学 e ラーニング協議会の初代会長としての任期を、2014 年度末にて終えますが、今後のさらなる発展を祈念します。そしてそれは、各大学が自律性を持って特色ある、明確な教育効果を表出することが必須のように思います。

### 3. 2013 年度第 1 回幹事校ミーティング・全体ミーティング開催報告

大学 e ラーニング協議会事務局

今年度第 1 回幹事校ミーティング・全体ミーティングは、教育システム情報学会（JSiSE）全国大会が 9 月 2～4 日に金沢大学で開催されるのに併せて、9 月 1 日（日）に「しいの木迎賓館（金沢市）で開催いたしました。幹事校ミーティングでは、11 月 21 日（木）に開催された e ラーニング Awards2013 公開フォーラムの内容について審議が行われたほか、次回の全体ミーティング、3 月の総会・フォーラム 2013 について審議が行われました。

全体ミーティングでは、今回はラウンド形式で、各大学の取組状況の共有を目的に、各大学から報告があり、それに対する質疑等が行われました。今回会場の準備等で金沢大学・森祥寛先生には大変お世話になり、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。



幹事校ミーティング



全体ミーティング

### 4. 2013 年度大学 e ラーニング協議会公開フォーラム・第 2 回幹事校ミーティング

#### 開催報告

大学 e ラーニング協議会事務局

2013 年 11 月 21 日（木）に御茶ノ水・ソラシティカンファレンスセンターにおいて、通算 5 回目となる公開フォーラムを開催しました。前年度と同様に e ラーニング Awards2013 内に併設する形式で、「学修支援のための ICT 活用教育-文部科学省 GP の成果を活用して-」をテーマに、岡本敏雄会長の挨拶に引き続き、協議会 3 部会の報告を兼ねて講演を行いました。

第1部会（ユーザインターフェイスとシステム連携検討部会）では、熊本大学・喜多敏博教授から、eラーニングシステムについて、CEAS、TIES、Moodle、CHILO Book等の説明を交え、オープンシステムの利用拡大、モバイル機器を用いた学習について講演がありました。

第2部会（ポートフォリオによる教育支援検討部会）では、佐賀大学・穂屋下茂教授から、本協議会がステークホルダとして参画している、大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」の現状報告がありました。事業2年目である今年度は、4～5月に8大学で実施したプレイスメントテスト（英語・数学・日本語・情報・学修観）の実施状況の説明の後、佐賀大学が主担当である「英語」に関するテスト、教材の開発、検討過程を中心に報告がありました。

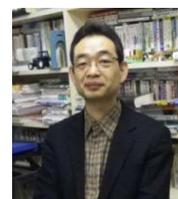
第3部会（教材共有検討部会）では、千歳科学技術大学・小松川浩教授、金沢大学・森祥寛助教から、各大学のGPの成果を共有している事例の紹介がありました。講演の中では、千歳科学技術大学、愛知大学、岩手県立大学、金沢大学の具体的事例が紹介されました。

本フォーラムには大学、企業関係者約80名の参加があり、50分間という限られた時間ではありましたが、盛会のうちに終了いたしました。



## 5. 連載企画「加盟大学の取組紹介」 第4回 酪農学園大学 「酪農学園大学におけるICT活用の取り組み」

酪農学園大学教育センター教務担当次長  
(eラーニング担当)・教授 吉野宣彦



酪農学園大学は北海道札幌市に隣接する江別市に位置し、学生数約3,500名の私立大学です。農業の担い手や関連産業に関する教育を主に進めており、近年は自然環境分野へも領域を広げています。獣医師や管理栄養士などの国家資格取得も重要な位置を占めています。農場や農家、農村など教室外のフィールドワークが重視され、ICT利用教育では目立った取組はされて来ませんでした。しかし学外フィールドでの実習で不可避免的に欠席する学生に、授業を補習する機会を与える意義は大きいものと思われます。

2008年に文科省の戦略的・大学間連携事業に採択されたことをきっかけに、関係3大学（本学及び北海道大学、帯広畜産大学）の事務局として本学に農学エクステンションセンター（3大学連携センターと略）を設置し、大学院での共同授業のためのテレビ会議とeラーニングのシステムを導入しました。同時に学部生にも利用を拡大し、ICT利用教育がやや前進しました。しかし2013年現在も専門組織はなく、3大学連携センターの補佐事務員がサポートし、事業担当教員を主に利用されています。2013年からはeラーニング担当教務次長がおかれて、全学的な取り組みの準備をしています。

2009年後半よりMoodleに移行し、2013年度にはバージョンアップをしました。この時にサーバを更新した後、古いサーバが故障し過去のログを取ることが出来ません。現在はコースを作成している教員は15名ほどで、コースは業務用、作成中、休眠中を含めて120あります（10

月時点)。

Moodle では教材配付・提出、ライブ授業の動画配信、小テストなどの機能を主に利用しています。

図1には2013年度の学生と教員の利用状況を「レポート」の「活動」で取得して示しました。7月末～8月上旬の試験期間に学生の活動が活発だったことが示されます。また9月以降には早い時期から活発化していることが示されます。同時に、教員も種々の教材を作り込んでいる様子もうかがえます。

全科目を通じたeラーニングに関する意識調査はしていませんが、筆者の授業で2010年と2012年に取ったアンケートで少し検討してみます(図2)。各項目について5段階で学生が評価した平均値を示しています。

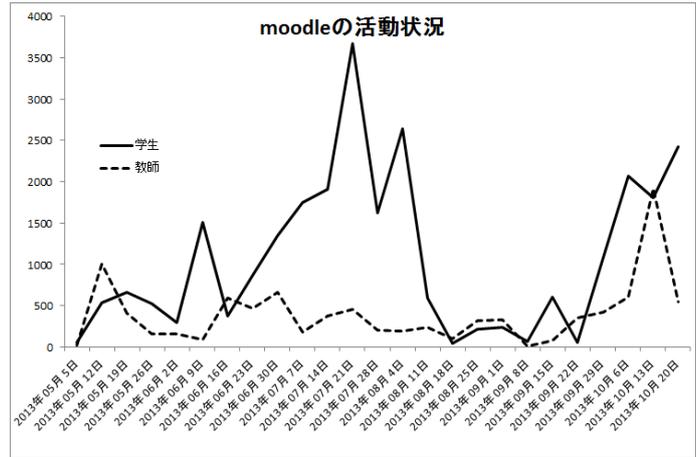


図1 Moodleの活動状況

小さい数値ほど評価が高いことを示しています。2回のアンケートに共通した項目のみを掲載しています。この授業ではライブ収録した授業を学内でのみ視聴できるようにし、配付資料と小テストをダウンロード可能にしていました。授業を視聴して欠席届とともに小テストを提出した学生は、出席とし、小テストの点数を平常点に加算しました。

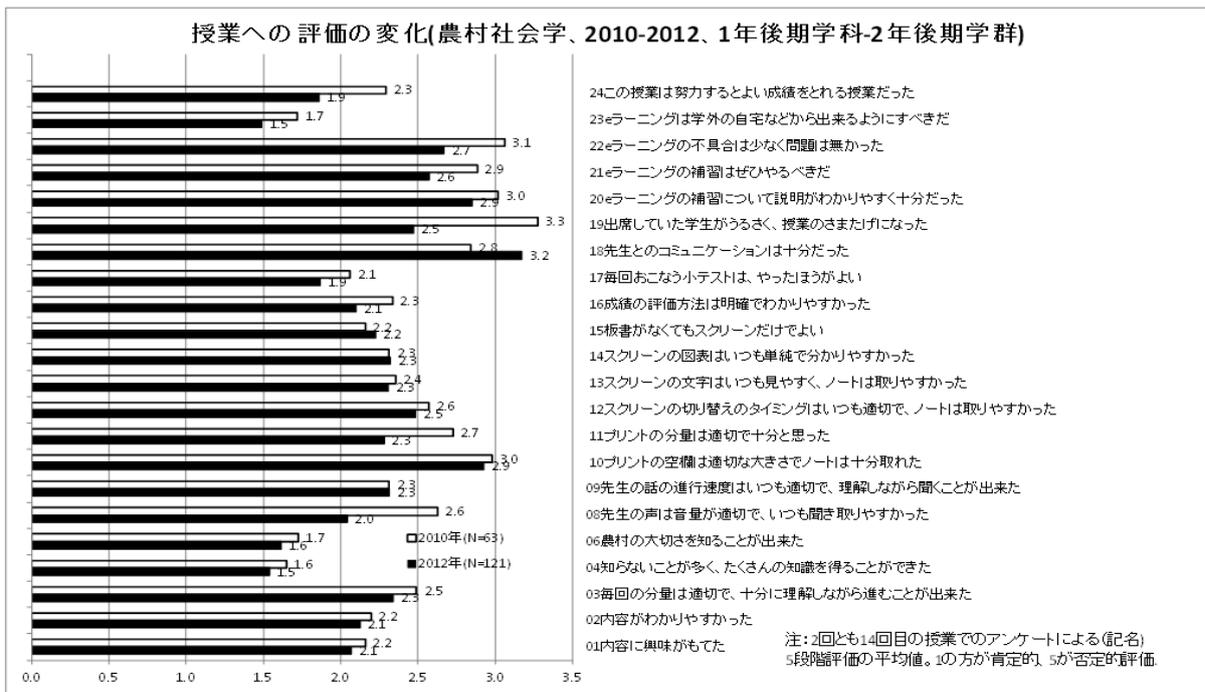


図2 授業への評価の変化

図2では、この3年間で評価がおおむね高まっています。ただし「先生とのコミュニケーションは十分だった」が下がりました。これは授業をライブで収録していたためにUSBカメラとマイクを取り付けたパソコンの前に立ちっぱなしで講義を続けたためと思われます。2013年度には、教室内を巡回するように工夫しています。このためパソコンへの音声収録をUSBマイクからワイヤレスのピンマイクに変更し、遠距離からパソコンを操作できるポインターに変更しています。この他に、マイクロソフト・パワーポイントのバージョンアップに伴い、授業収録ソフトが適切に動作しない問題が発生し、新しいソフトに変えるなど、手探りの改良を進めている状態です。

図2のアンケートでは学生が自宅で学習できるようにして欲しいという要望が強いことが

示されます。2013 年度からは可能にしましたが、ログが適切に取れるか否かなど検証しつつ進めています。

この他に、ICT 利用といえる設備としては、Web 情報学生支援システム、ポートフォリオ、飛ぶノート、クリッカー、携帯からアクセスする SNS、テレビ会議システムがあげられます。少しずつ利用者は増加しますが、テクニカルなサポート体制、利用に関する基準や企画など、いずれも専門組織がなく、今後の大きな課題となっています。

## 6. 事務局からのお知らせ・お願い

### ■「総会・フォーラム 2013」における個人研究発表・個別事例発表の募集について

総会・フォーラム 2013 において、e ラーニング実践に関する個人研究発表・個別事例発表を募集します。

今年度は企画セッションとし、次のようなキーワードの下で、発表を募ることとしました。そのため、8 件程度の個人発表に限定させていただきます。（1 ブロック＝15 分発表×4 件＋30 分討論）

#### 【キーワード】

（システムと教材）LMS、e ポートフォリオ、e ラーニング教材

（教育の質保証）反転授業、アクティブ・ラーニング、協同学習、ICT 活用教育

1. 募集期間：12 月 16 日（月）～1 月 17 日（金）
2. 募集要項：発表タイトル（40 字以内）、発表内容要旨（200 字以内）  
を下記提出先までメールでお送りください。
3. 応募先：大学 e ラーニング協議会  
代表幹事校 佐賀大学  
穂屋下 茂

e-mail: uela2013@uela.org

※なお、発表していただく方には、**1 月 31 日（金）締め切り**で、総会・フォーラム当日配布予定の資料集用に原稿（A4 で 2 枚～4 枚）を提出していただきます。皆様の積極的な応募をお待ちしています。

### ■「総会・フォーラム 2013」における各大学 e ラーニング現況報告の提出について

例年どおり、総会・フォーラム配布資料として、加盟大学における e ラーニング現況報告をお願いいたします。つきましては、簡単な報告書を提出していただきますので、加盟校の皆さんは必ず提出をお願いいたします。別途事務局よりお願いいたします。

### ■皆様からの情報をお寄せ下さい

加盟大学主催のフォーラム等の案内を当協議会ホームページ上に掲載いたします。掲載を希望する大学は事務局までご連絡下さい。

また加盟大学の皆様が学会等で表彰を受けられたニュース等もニューズレターに掲載いたしますので、情報がございましたら是非お寄せください。

### ■新規加盟大学（2013年7月以降）

京都情報大学院大学

**大学eラーニング協議会ニュースレター NO.6**  
**2013年12月15日発行**

事務局:千歳科学技術大学 教育連携推進課  
〒066-8655 北海道千歳市美々758 番地 65  
TEL: 0123-27-6044 FAX: 0123-27-6007  
URL: <http://www.uela.org/> E-mail: [uela-office@uela.org](mailto:uela-office@uela.org)